

平成28年9月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 代表質問

7番 坊野 公治

1. 放課後児童クラブについて

①井原市では、施設整備について「余裕教室の活用。それが難しい場合は専用施設を建てる。」という方針を示されています。現在までの施設整備の状況と、今後の取り組みについてお伺いします。

②指導員の確保については、各クラブとも苦勞されています。各クラブの指導員の状況と、確保に対する井原市の取り組みについてお伺いします。

③現在、アレルギーを持つ子どもが増えています。そうした中、アレルギーのある児童に対する支援についてお伺いします。

2. 親育ちの支援について

1) これから親になる若い世代の方から現在子育て真っ最中の方、そして孫育て世代の方まで、幅広い世代の方を対象にした、親育ちを応援するための「親育ち応援学習プログラム」について、井原市の取り組みの現状と効果についてお伺いします。

2) 親育ちを支援し、将来の親を育む「赤ちゃん登校日」という取り組みがあります。この取り組みは、赤ちゃんと保護者が学校を訪問し、児童・生徒と交流することによって、児童・生徒にとっては命の大切さ、赤ちゃんへの理解、家族への敬愛の念、育ててくれた人への感謝、自分が親になるイメージを持つことができ、赤ちゃんの親にとっては、子育ての喜びや励み、一緒に訪問した保護者同士の交流、わが子が大きくなった時のイメージを持つことが期待される取り組みです。そこで、「赤ちゃん登校日」を実施してはどうかお伺いします。

3. 地元雇用の促進について

地元の高校生が、卒業後、井原市の企業を就職先として選択してもらうため、「企業インターンシップ制度」を創設し、学生に地元企業の仕事内容や良さを理解してもらう機会をつくったらどうかお伺いします。

4. 中学生・高校生へのキャリア教育について

①井原市が行っているキャリア教育についてお伺いします。

②今後の取り組みについてお伺いします。

◎ 個人質問

10番 簗戸 利昭

1. 防災対策について

1) 防災対策について伺う。

①本年6月22日、23日に降った雨量はどれくらいであったのか。市内各測定場所別の総雨量、時間雨量（最大は）どれくらいであったのか。

②被害状況は。

③市が取られた対応は。

④水防団待機水位は。

⑤各分団本部待機場所に井原放送、お知らせくんはどれくらい導入されているのか。

2) 総合防災訓練・小田川決壊を想定した避難訓練について伺う。

①総合防災訓練及び避難訓練の反省点は。

②各自治連合会単位（自主防災組織）で避難訓練等を実施した場合の要支援者等の個人情報の取扱いについて伺う。

16番 佐藤 豊

1. 元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン及び総合戦略について

平成28年2月に、元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョンと併せて総合戦略を策定し、具体的な地域創生に向けた取り組みがスタートしております。そうした中、市議会として、この8月2日より25日にかけて、市内13地区で市民の声を聴く会を開催し、初めての試みである「人口減少問題をみんなで考えよう」と題してのワークショップを行い、参加者の皆様から市や地区ごとの課題や解決策など数多くのご提案、ご意見をいただきました。

その際、独身男女の出会いの場の積極的展開や、行政が主体の「おせっかい仲人さん」を雇用して縁結びをしてはどうか等の婚活や結婚相談体制の拡充への期待の声を多くいただき、切実な現状を改めて認識したところであります。市としても地域創生課において、井笠圏域内での「出会いの場」の提供を年3回ほど実施されている現状にあるとお聞きしますが、出会いの場の環境としては、一人でも多くの男女が集い、ふれあってコミュニケーションを広げることが求められると考えます。

そこで、次の3点についてお伺いします。

①井笠圏域3市2町で開催している「出会いの場創出事業」の開催回数を増やすことについて

②高梁川流域圏の広域連携事業による結婚推進事業との関わりについて

③矢掛町は、月曜日から金曜日までの週5日結婚相談を行っていますが、井原市も同様な結婚相談を行うことについて

2. 発達障害者支援の現状と今後の対応について

平成17年4月1日に発達障害者支援法が施行され、発達障害者への理解と

支援体制は大きく進んだように感じますが、文部科学省の推計によれば、公立の小中学校の通常学級に通う子供たちの6.5%程度に何らかの発達障害の可能性があるとされています。そうした現状を踏まえ、各県単位に発達障害者支援センターを開設し、相談や支援業務に取り組んでいる状況であります。

そうした中、各市町村においても相談支援の取り組みとして巡回支援専門員の整備やペアレントトレーニング、ペアレントメンターでの支援と相談体制が進んでいますが、本市における支援の現状と今後の対応について伺います。

4番 柳井 一徳

1. 投票率向上に向けた対策について

投票率の低下が進む中、行政として投票率向上に向けて啓発活動に努力されています。

そこで、投票率向上に向けた対策について、次の4点の質問をいたします。

①平成28年7月の参議院議員選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられましたが、投票への啓発活動はどのような方法で実施されたのかお伺いします。

②今回の参議院議員選挙における、本市の18歳、19歳のそれぞれの有権者数、投票者数、投票率をお伺いします。

③直近の過去2回の市議会議員選挙、市長選挙、県知事選挙、県議会議員選挙、衆議院議員選挙、参議院議員選挙の投票率をお伺いします。

④今後、18歳以上を含む市民への選挙参加に対する啓発活動をどのように行うつもりかお伺いします。

1. 産業団地の開発について

「元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標1「井原市における安定した雇用を創出する」の具体的な施策の中に「産業団地の開発」と掲げられており、本年度、産業団地適地調査委託料が予算計上されていますが、現在進められている産業団地の開発の状況について伺います。

①現在の取り組み状況について伺います。

②総合戦略に掲げられているK P Iの設定値について伺います。

③今後のスケジュールについて伺います。

2. 元気いばらセールスマンの活動状況について

平成27年4月に、「元気いばら創生戦略本部」の設置にあわせ魅力発信係を新規に作られ、「元気いばらセールスマン」2名を配置し、本市の魅力を全国に発信すべく、首都圏でのセールスを中心に幅広く展開されていますが、「元気いばらセールスマン」の活動状況について伺います。

①今年度の活動状況及びこれまでの成果について伺います。

②東京新橋の岡山県アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」において開催した「いばらぶどうPRフェア」の開催結果やPR効果について伺います。

③今年度、新たに予定している事業等、今後の活動計画について伺います。

1. 企業誘致について

この件については、これまで一般質問で何度も質問されています。

市民の方と話していても「若者が市外に出て行ってしまう」「市外の高校・大学に行った若者が帰って来ない」という話から、「Iターン・Uターン」や「定住促進」の話をしていても最後には必ずと言っていいほど「働く場が無いから」ということになり、「雇用の場・働く場を確保することがとにかく必要だ」という話に行きついてしまいます。

本市の総合計画の後期基本計画では、平成29年度までに新規企業誘致2社を掲げていますが、今のところ1社も実現していないのが現状です。

本市としても元気いばら創生戦略本部を設置し、「雇用の創出」を前面に打ち出し、そのキーポイントとして「企業誘致」を位置づけ、全庁的に取り組んでいく姿勢を示されています。

そうしたことを踏まえた上で、改めて質問をいたします。

- ①現在本市の企業用地は四季が丘1か所ですが、これまで問い合わせのあった企業の年度別企業数、業種、交渉の経緯をお伺いします。
また、合意に至らなかった理由も合わせてお伺いします。

- ②昨年12月定例会での同僚議員の質問の中で、現在別の産業団地の開発を考えている旨の答弁がありました。具体的な場所については白紙の状態、今年度、候補地等の選定についての調査を進めていく考えを示されました。また、企業ニーズに合った比較的小規模な産業団地を考えているとのことでもあります。

この「企業ニーズに合った産業団地」というのがよくわかりません。具体的にはどのようなものをイメージされているのでしょうか、お伺いします。

2. 幼・小・中学生の制服にデニム素材を採用することについて

「活力を生む産業のまちづくり」を目指す本市としては、新規企業誘致の推進を図るとともに、地場企業が元気で活力が地域産業全体に波及するよう、地域を支える地場企業の経営基盤を強化し、育成することを基本目標としていま

す。

そこで、本市の基幹産業である繊維、とりわけデニム素材を市内幼稚園・小学校・中学校の制服に採用してはどうか、との提案をさせていただきます。

私は以前より「デニムのまち井原」を発信する本市が、なぜ子供たちの制服にデニム素材を採用していないのか不思議に思っておりました。

デニム素材のジーンズは元々ワーキングウエアでしたが、現在では老若男女を問わず愛用されています。近年では欧米の有名ブランドに井原産デニムが採用され、また着物や浴衣などにも使われるようになってきています。

デニム素材は丈夫で長持ち、木綿ですから吸湿性・通気性もよく、動き盛りの子供たちの制服にはぴったりだと思います。

市内にはデニムの織物業者や縫製業者も多く、繊維業界全体の活性化へ資するところも大きなものがあると考えます。

また、採用されれば、「デニムのまち井原」をさらに全国に大きく発信できるのではないかとともに思います。

この提案に対する市長のお考えをお伺いします。合わせて採用された場合の本市への経済効果はどのくらいのものがあるのか、また採用するにあたってのハードル、課題にはどのようなものがあるのかお伺いします。

12番 三輪 順治

1. 行政改革大綱・集中改革プランの取り組みについて

本市を取り巻く諸問題に迅速かつ的確に対応し、自主・自律的な行財政運営を継続的に推進することを目的とした「集中改革プラン」に取り組まれています。新たな視点を含め以下のことについて伺う。

1) 市民にとってわかりやすい利便性の高い組織づくりと事務処理日数の短縮に向けた取り組みのうち

- ①スポーツ及び文化の振興に関しては、現在教育委員会で担当されているが、この2分野について市長部局で担当するほうが「健康寿命日本一」を目指している本市にとっては様々な意味で望ましい、と考えるが市長の考えについて伺う。

②芳井支所、美星支所の決裁権限の主な分野における現状と今後のあり方について伺う。

2) 公正の確保と透明性の向上に関し

①市民本位の施策展開、施策への市民参加という視点から、市が行っている「行政評価」へ市民や外部の第三者が参加することの意義及び考え方について伺う。

②「元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略」において数値目標として掲げている「重要業績評価指標（K P I）」の検証手法とその公表について伺う。

③「集中改革プラン」で掲げられている「外部監査制度の導入」に向けた研究の進捗度合いについて伺う。

3) 人材育成の観点から

①井原市（職員）人材育成基本方針の見直し作業の進捗について伺う。

②市の職員による政策提案の採用実績と今後のあり方について伺う。

③公民館主事の勤務実態と今後のあり方について伺う。

あわせて、現行1名体制となっている職員を、各館1名から2名に増員することの考え方について伺う。

2. 空き家をめぐる今後の取り組み姿勢について

昨年5月、「空家等対策の推進に関する特別措置法」が全面施行された。

そこで、以下井原市の考え方について伺う。

1) まず、「空き家」の定義及び直近の「住宅・土地統計調査」の結果概要について示していただきたい。その上で

①本市の実態調査の取り組み概要について

②「特定空き家」指定に関する考え方について

③個人の私有財産に対する解体命令や行政代執行の考え方について

④所有者不明物件への対応について

⑤税制面での現状と今後の対応について

2) 空き家について「利活用」という視点から、

①近代日本木彫界の巨匠である平櫛田中の生誕の地である本市で、全国・世界から木彫家を志す方々に対し、所有者の了解のもと「空き家」を改造・活用し、この改修した建物を使い木彫制作に専念していただくという、いわば「木彫りの里づくり」（仮称）構想について

②空き家バンク情報の管理手法と全国市町村間でのネットワーク化について

③民泊の宿泊施設として活用するとか、在宅勤務が可能となるサテライト・ビジネス空間の場として活用するなどの考えについて

3. 井原市への新しいひとの流れを作るための施策について

本年2月に策定された「元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略」では、人口減少問題を克服し、井原市が将来にわたり発展する道筋が記されている。

そこには、4本の基本目標がうたっているが、このうち、「井原市への新しいひとの流れを作るための施策」について、以下3点伺う。

①市外から井原市への入込観光客数の推移と今後の数値目標について

②「井原駅前通り賑わい創出事業」に関する市の姿勢又はビジョンについて

③バスや鉄道の玄関口となっている「井原駅」における市の観光を含めた各種情報提供の現状と今後の対策について

1. 井原市の事務職員及び技術職員等について

- ①井原市事務職員、技術職員募集について、募集要項の資格内容、周知方法を伺う。
- ②市職員の処遇について、職員で病気で休職・退職された方がおられるのか、また職員にサービス残業などということが今現在実際にあるのか伺う。
- ③建設、建築、上下水道事業に係る技術職員の人員状況及び10年、20年後を見据えた技術職員の後継者作りについて伺う。
- ④技術職員等で複数年、同じ部署におられる方は何人いるのか、また、その理由を伺う。
- ⑤嘱託職員及び臨時職員の人数、処遇について伺う。

1. 公共施設等総合管理計画の策定について

本年3月、井原市公共施設白書が公表され、6月には市議会において、今年度、公共施設等総合管理計画を策定するとの方針が示された。策定にあたり、次の3点について伺う。

- ①策定の目的について
- ②策定の内容について
- ③策定後の実施に向けたスケジュールについて

2. 井原中学校校舎建設及び学校施設管理計画について

1) 本年6月、井原市教育委員会から井原中学校校舎建設基本設計概要書が公表された。特別教室棟、普通教室棟とプール棟、部室棟とを建設する計画であり、次代を担う生徒達が学習するにふさわしい施設の建設が求められている。

そこで、基本設計概要書の詳細について伺う。

2) 今後の市内の学校施設の管理計画について伺う。

1 番 西村 慎次郎

1. 井原市第6次総合計画後期基本計画の「ひとづくり」に関する取り組み状況等について

平成30年度から10年間のまちづくりの指針となる井原市第7次総合計画の策定作業がスタートしたところであるが、その策定のベースとなる現在推進中の井原市第6次総合計画後期基本計画のうち、「ひとづくり」に関する基本目標「心豊かでたくましいひとを育てるまち」の取り組み状況等について伺う。

1) 基本施策1「心と体を育てる教育の充実」に対して、今までの取り組み状況及び成果と課題について伺う。

2) 基本施策2「基礎学力を向上させ可能性を伸ばす教育の充実」に対して、今までの取り組み状況及び成果と課題について伺う。

3) 上記1) 2) の取り組みを踏まえて、人口減少対策にもつながる「郷土愛の醸成」について、今までの成果及び今後の取り組みについて伺う。

2. 「地域おこし協力隊」の配置状況、活動状況及び今後の活用について

全国的に地域の新たな担い手として「地域おこし協力隊」を導入する自治体が増加する中、井原市においても、昨年10月より地域おこし協力隊員を導入されて概ね一年が経過するが、これまでの隊員の配置状況及び各隊員それぞれの活動状況について伺う。

また、元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、井原市へ新

しいひとの流れをつくり、定住人口の増加を図るため、地域おこし協力隊を積極的に活用することとされているが、今年度の募集状況及び今後の活用について伺う。

14番 大鳴 二郎

1. 初の18歳選挙権施行後の問題点について

①70年ぶりに選挙権年齢が引き下げられて行われた参議院議員選挙での井原市の年代別の投票率が明らかになりましたが、この投票率を見てどう思われますか、また主権者教育等がこの選挙の投票率向上に繋がったのですか。

②参議院議員選挙は済みましたが、主権者教育はこれからも続けるのですか。

③中学生高校生が身近な議会の活動を少しでも理解できるように、授業の一環として議会の傍聴に来ていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

④学校での主権者教育をどう思われましたか。生徒の反応は。

2. 土砂災害への対策について

①今年6月の梅雨前線の停滞に伴う大雨で井笠地域や高梁市の住宅などに土砂が流入する被害が起きました。そこで、井原市の土砂災害への対策について伺います。

②岡山県内では、土砂災害警戒区域が1万2千か所、特別警戒区域が375か所、このうち井原市には警戒区域が591か所ありますが、井原市内の警戒区域の実地調査をする可能性はありますか。

③笠岡市は6月12日から29日までの大雨による崩落土砂等の撤去費補助金を創設しました。この補助金に対する井原市の考えを伺います。

④災害見舞金の内容を伺います。

20番 森本 典夫

1. 「協会けんぽと市との協定書締結について」のその後について

平成28年2月市議会定例会で、健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定書を協会けんぽと交わしてはどうかと提言しました。

お答えは、「協定内容につきましては、本市の健康づくりに活用できる内容にしていく必要があるわけでごさいます、しっかりと早い段階で調査研究し、取り組みをできるものかどうかということもしっかりと検討して、早い段階で調査研究をしていきたいというふうに思っております。」とのことでした。

その後、調査研究の結果、現段階でどういう状況になっていますか。

2. 子ども医療費の無料化を18歳まで拡大することについて

平成27年6月市議会定例会で、子ども医療費の無料化を18歳まで拡大してはどうかと提言しました。

私が質問した後、市民の方から「子育てしやすい井原市のイメージづくりと、実際に病気、けがの時、安心して病院にかかれるという安心感は大変重要なことですね。ぜひ対象年齢を拡大してほしいです」などという声を聞きました。

市民が病気などになった時の安心のために、ぜひ子ども医療費の無料化を18歳まで拡大してはどうですか。

昨年6月に続いて、再度市長のお考えをお尋ねいたします。

3. 美星国保診療所に耳鼻咽喉科を新設することについて

美星地区民から「現在、耳鼻科の診察は旧井原市、矢掛町、高梁市などへ行っている。週に1回か2週に1回、最低でも月1回は美星国保診療所で受診できるようにしてほしい」との声を聞きます。

診療所で耳鼻科の受診ができるようにという美星地区民の声に応えるため、指定管理者に積極的にお願いするなど、最大限の努力をし、実現してほしいと

と思いますが、お考えをお聞かせください。

4. 井原市民病院の特別室、個室の使用料減免状況について

患者やその家族が特別室や個室を希望した場合を除き、「治療上必要」とか「病院の都合」で、特別室、個室へ入っていただいた場合、使用料減免の対象になりますが、井原市民病院で過去5年間に減免した件数はいくらありますか。あれば減免の理由は何ですか。

5. 3歳児教育未実施幼稚園への抜本的手だてについて

平成28年2月市議会定例会で、3歳児教育未実施幼稚園への3歳児受け入れ条件の早期整備について質問しました。教育長のご答弁では、3園の実施が困難な理由を言われました。また、元気いばら、まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標に、平成31年度までに全ての幼稚園において3歳児教育を実施することとしており、その達成に向けて園児数の推移を見ながら課題解決の方法を検討してまいりたいと考えておりますとのことでした。

未実施幼稚園圏内の関係者は、一日も早い受け入れをと切望しています。2月議会でお聞きした「保育室と教員の確保が必要」「空き保育室がない」などの実施困難な理由は、確かに大変さは理解できます。だからこそ平成31年度までに実施するための抜本的な手だてを講じなければ実施できません。

新たにどんな手だてが必要だとお考えなのか、具体的にお聞かせください。

2番 河合謙治

1. ふるさと納税について

「ふるさと納税」議論は、平成19年5月の総務大臣の問題提起から始まりました。

それは、多くの国民が、地方の「ふるさと」で生まれ、教育を受け、育ち、進学や就職を機に都会に出て、そこで納税をします。その結果、都会の地方自治体は税収を得るが、彼らが育った「ふるさと」の地方自治体には税収はありません。そこで、今は都会に住んでいても、自分を育ててくれた「ふるさと」

に、自分の意思で、いくらでも納税できる制度があっても良いのではないか、という問題提起です。

そこで、井原市において、

①過去3年間の寄附件数と寄附金額についてお伺いします。

②平成28年度における返礼品の種類についてお伺いします。

③井原市における企業版ふるさと納税に対する考えをお伺いします。

2. 狂犬病対策について

狂犬病予防法が制定される1950年以前、日本国内では多くの犬が狂犬病と診断され、人も狂犬病に感染し死亡していました。

このような状況の中で狂犬病予防法が施行され、犬の登録、予防注射、野犬等の抑留が徹底されるようになり、わずか7年という短期間のうちに狂犬病を撲滅するに至りました。この事例を見ても、犬の登録や予防注射が狂犬病予防にいかに重要な役割を果たすかが理解できます。

現在、日本では、犬などを含めて狂犬病の発生はありません。

しかし狂犬病は、日本の周辺国を含む世界のほとんどの地域で依然として発生しており、日本は常に侵入の脅威にさらされていることから、万一の侵入に備えた対策が重要となっています。

万一狂犬病が国内で発生した場合には、素早くしっかりと発生の拡大とまん延の防止を図ることが非常に重要となります。そのためには、犬の飼い主一人一人が狂犬病に関して正しい知識を持ち、飼い犬の登録と予防注射を確実に行うことが必要であり、そうすることによって公衆衛生の向上と公共の福祉の増進に寄与していることを飼い主の方にはしっかりと自覚していただくことが望まれます。

しかし、岡山県内の狂犬病のワクチン接種率が低迷しています。国が都道府県別の状況を公表している2009年度からは少なくとも全国ワースト3位内が続いており、感染への危機意識の乏しさや接種しても市町村に届けていないケースの多さが要因とみられています。

そこで、井原市における狂犬病対策はどうかお伺いします。

1. 「元気いばらおいでんせ～事業」の「いばらぐらしお試し住宅」と「いばらぐらし体験ツアー」の実施状況について

本年度、移住対策として新たに取り組んでいる「いばらぐらしお試し住宅」と「いばらぐらし体験ツアー」については、6月市議会定例会でも質問し、回答をいただいている。

「いばらぐらしお試し住宅」については、本年5月から運用を開始され、都市圏をはじめ他府県から多くの方にご利用いただいていると聞いている。その後の利用状況について伺う。

また、本年7月に実施された「いばらぐらし体験ツアー」について、その実施状況を伺う。

2. 井原中学校新校舎建設について

①広報いばらにも出ていたが、工事概要とスケジュールについて伺う。

②授業への騒音対策、工事の安全対策（学校内、地域の方々）について伺う。

3. 第4期井原市教育審議会について

現在、第4期の井原市教育審議会に対して諮問が行われ、審議が始まっているが、これまでの経緯と今後のスケジュールについて、また、審議会のメンバー構成について伺う。